



# この夏の最終システム

シリーズ 済生会の力

この青空は、誰の上にも広がっています。

しかし、その下では

誰もが同じように暮らしているとは

限りません。

貧しい人の「いのち」をつなぐ医療を無償で。

そのことを目的に、済生会は明治天皇によって創設されました。

以来104年余。

今も生活困窮者への支援を使命として活動を続けています。

『いのちの最終ライン』は、済生会が守ります。



## CONTENTS

### 済生会の力① —いのちの最終ライン

- |    |                          |    |                       |
|----|--------------------------|----|-----------------------|
| 04 | 生活困窮者を支援する「無低」と「なでしこプラン」 | 14 | 支援の中でいただいた感謝の「ことば」②   |
| 05 | 支援の中でいただいた感謝の「ことば」①      | 26 | 児童虐待防止へ 二人の医師の新たな取り組み |
| 12 | 対談 — 困窮者の影の部分に寄り添うMSW    | 28 | 済生会の生活困窮者支援事業利用者      |
|    |                          | 30 | 社会貢献は創立の原点 — 済生会の活動   |

年間、延べ209万人が利用。

生活困窮者を支援する「無低」と「なでしこプラン」

経済的に困っている人たちの医療費を所得に応じて無料に、または減額するのが「無料低額診療（無低）」です。昭和27年の社会福祉事業法（現・社会福祉法）に定められた済生会の根幹事業です。しかし、時代や社会の移り変わりに伴い、貧困の姿も変わっていきます。ホームレス、刑務所等からの出所者、独居のお年寄り、障害者、ハンセン病回復者、DV（家庭内暴力）の被害者、母子家庭、在日外国人……こうした、法ではなかなか救済できない困窮者に対応するため、無低事業に加え済生会は新しく生活困窮者支援事業を始めました。会の紋章にちなんで「なでしこプラン」と

呼んでいます。

無低事業は26年度、延べ19.5万人に、「なでしこプラン」は14万人に実施しました。これらの事業の先頭に立つのは、多くが医療ソーシャルワーカー（MSW）や医師・看護師等です。その過程で、各事業の対象者の方々からたくさんの感謝の「ことば」をいただきます。もちろん「ことば」をいただくことが目的ではありません。が、「ことば」によって新たな勇気が湧いてくるのも事実です。そして、その勇気がまた、事業に当たる職員たちの笑顔をつくってくのです。

支援の中でいただいた

勇気が湧く感謝の「ことば」を紹介します。

皆さんが笑顔で

ホツとする。

—— 難民支援協会のスタッフから贈られたことば。「他の病院はどこに行っても歓迎されていない感じがしてつらい」（埼玉・川口総合病院）

山口・下関総合病院の医療ソーシャルワーカー（MSW）

看護師が親切だった。  
 今まであんなにしてもらったことは  
 一度もなかった。

——公園から救急で東京都済生会中央病院に運ばれたホームレスの男性。  
 数十年ぶりで生まれ故郷へ帰れることになり、  
 手続きを取ってくれた行政のケースワーカーにそう漏らした



もう誰にも頼れないから……

これで治療を  
 受けられるよ。

——30年前に出稼ぎで来たという身寄りのない66歳の男性。  
 金銭面から肺がんの化学療法を諦めかけたが、  
 治療費の免除が決まって（神奈川県・横浜市南部病院）

利用者に無低事業を説明するMSW（大阪・野江病院）



大阪・釜ヶ崎地区健診事業（大阪市西成区あいりん地区）。  
 大阪府済生会支部の8病院とNPO法人・釜ヶ崎支援機  
 構が協働し、日雇い労働者を対象に毎年、行っている

生きていても  
 良いのでしょうか。

——自殺を企てた年金生活の人が無低により治療を受けた  
 （栃木・宇都宮病院）



瀬戸内海巡回診療船「済生丸」。岡山、広島、香川、愛媛4県の離島を巡り、50年以上にわたって島の人々の健康を守ってきた。現在の船は4代目



# 待ったよー

—瀬戸内海巡回診療船「済生丸」が着岸した岡山県飛島のお年寄り

## 本土へ行くとなると大変だけど、来てくれるんなら 普段着のまま、ええじゃろ。

—「済生丸」の待合室は、いつも島の人たちのサロンとなる。広島県津和知島で



愛媛・西条病院による山間地での健診・健康教室。愛媛・松山病院や三重・松阪総合病院、福岡総合病院、福岡・八幡総合病院、大分・日田病院、熊本・みすみ病院等もへき地や離島に赴いて主に高齢者の健診・診療を行っている



ホームレスのためのインフルエンザ予防接種（福岡総合病院）

# 注射なんか 小学校の時、 してもらっただけ。

— 刑務所等から出た人が社会に復帰するため一時的に暮らす更生保護施設。そこで健診とインフル予防接種を受けた元受刑者（富山病院）



ホームレスへの巡回健診（神奈川・平塚病院）

## 治療を始めてよかった。 痛みもなくなり、 動ける時間が長くなりました。

——子宮頸がんの40代女性が涙ながらに。抗がん剤治療が必要なのに医療費が心配で治療をためらっていたが、無低適用で治療が受けられた(福岡総合病院)

## これで安心して あっちの世界に行けます。 お金のことが 一番心配だったの。

——困窮ながらも生活保護を受けずにいた  
独り暮らしの90歳の女性。  
治療費免除を受け、末期の食道がんで苦しい中、  
声を絞り出しながら(神奈川・横浜市南部病院)

## 残りの人生を 真面目に精いっぱい 生きていくつもりです。

——更生保護施設で無料健診を受け、病が見つかった  
(茨城・水戸済生会総合病院)



兵庫県済生会 くらぶ  
なでしこ暮楽部  
有野台  
高齢者等見守り事業  
・電話/巡回等による見守り活動  
・介護/福祉サービス等の提供  
月曜～金曜 (午前9時～午後5時)  
☎ (078) 597-6015

兵庫県支部が神戸市の団地に開設した高齢者向け相談所「なでしこ暮楽部」。職員が昼間常駐し、孤独死を防ぐため、話し相手になったり、団地内を回って催しへの参加を呼びかけている



入院患者に無低の説明をするMSW  
(三重・明和病院)

## (両親がなくなって) 私はさみしいけど、 天国で2人は 喜んでいると思います。

——生活保護世帯だったが、精神疾患がある次女に  
障害年金の支給が開始され、生活保護廃止に。  
その後、両親はがんで相次いで病院で死去した。  
その間の治療費の免除を受けて次女が語った  
(大阪府・中津病院)

## 話す人がいないというのが あんなに苦しいもんとは…… 孤独地獄から 救われました。

——神戸市の団地に入居して3年間、話し相手が  
いなかったという独り暮らしのお年寄り。  
団地の一室に済生会の相談所がオープンしたときに  
やって来て話した  
(兵庫・なでしこ暮楽部)

## 自分たち夫婦が 年金に入っていなかったばかりに 娘には苦勞をかけて…… おかあちゃんには リハビリ頑張ってもらって 早く元気な声が聞きたい。

——妻が入院した夫。治療費の減免を受けて  
(岡山・吉備病院)

# 困窮者の影の部分に寄り添うMSW 光が見えた時の安堵感を共有したい

生活困窮者支援には、医療ソーシャルワーカー（MSW）の活動が欠かせません。日本初のMSWを生んだ済生会が医療社会事業を担っていくうえでこの職種がいかに重要か、炭谷茂理事長と原田彩子広島病院主任（MSW）に改めて話し合ってもらいました。



## 原田彩子

Ayako Harada  
[広島病院 MSW]

**炭谷** 医療ソーシャルワーカー（MSW）の果たす役割が大きいと思います。原田さんが所属する広島病院では、どうですか。  
**原田** 当院では現在4人のMSWが多様な仕事に関わっています。一つ一つの仕事に対する役割は大きく、その分、責任も大きいと実感しています。以前より、無料低額診療事業（無低）の広報を積極的にやっていることもあり、行政や社会福祉協議会等から受療相談を受けることもあり、信頼されていると感じます。  
**炭谷** 病院や関連社会福祉施設の職員との連携・協力体制はどうですか。

**原田** 私も最初はMSWとしての経験も少なく、他職種と意見を交わしながら連携することの難しさを感じていました。しかし、今は自信を持って医師や看護師等と関わることができるようになり、うまく連携を取れるようになりました。仕事上、他職種の協力は必須で、今は自分なりのネットワークも構築できていると感じています。  
**炭谷** 済生会の皆さんは、社会医療事業というMSW本来の仕事に濃厚に携わっていると思います。しかし他団体のMSWは、ともすれば、日々退院調整等の業務に追われているのが実情ではないでしょうか。私は、MSWは病院の中だけでなく、地域の課題に関心を持ち、果敢に挑戦していくことがこれからきわめて重要になっていくと思います。このような使命感を全ての日本のMSWが共通に持つてほしいと感じています。

**原田** 済生会は無低を行っていることもありますが、独自に生活困窮者支援事業「なでしこプラン」を実施していることも大きいと思います。  
**炭谷** 「なでしこプラン」は、無低事業だけではすくい取れない、より多くの困窮者に支援の手を伸ばそうと平成22年にスタートしたものです。これは3年間の計画でしたが、始めてみると、社会の陽の当たらないところで支援を求めている人が予想以上に多いことが分かりました。さらに拡充して、25年度からは「第二次なでしこプラン」に入りました。  
**原田** NPO法人などで生活困窮者を支援しているところはありますが、路上生活者とか在留外国人、DV被害者など対象者を限定しており、対応する範囲が限られています。済生会のように、対象を広くとらえての支援はあまり見かけないように感

## 炭谷 茂

Shigeru Sumitani  
[済生会理事長]



じます。NPO法人は性格上、仕方がないかもしれませんが、社会福祉法人でも積極的なところは少ないように思います。  
**炭谷** 法律の枠内だけで活動している社会福祉法人が多いからでしょう。社会福祉法人は、各地の社会福祉協議会を除いて全国に約1万7000ありますが、法の要求することだけをしていればいい時代は終わりました。これからは「社会福祉」という社会福祉法人存立の目的を踏まえ、より積極的に社会に貢献していくことが求められていくでしょう。  
**原田** そういう意味では、済生会は一歩先を進んでいると言え

ますね。  
**炭谷** 医療と福祉の機能を併せ持つ日本最大の社会福祉法人として、範にならないといけないと思います。また、明治天皇の掲げた「施薬救療による困窮者の救済」が本会存立の大本ですので、その使命を果たすためにも広い支援を続けていかなければなりません。その先頭に立って困窮者の声を聴くのがMSWです。  
**原田** そうですね。済生会こそ日本初のMSWを生んだところ  
**炭谷** 昭和4年（1929）、東京の聖路加病院（現在の聖路加国際病院）が採用した「浅賀ふ

さ」が最初と一般的に言われていますが、それ以前に「済生会社会部」がつくられていて、昭和3年、芝病院（現在の東京中央病院）に「清水利子」という日本女子大を卒業したばかりの女性が配属され、医療社会事業を担当しています。  
**原田** 歴史の重みを感じますね。  
**炭谷** 戦乱でいったん途切れた後は、各施設が散発的に医療社会事業を行ってきました。なでしこプラン実施と同時に、済生会の病院や施設が福祉系の大学を出た人を採用し、MSWが一気に増えました。日本全体のMSW事業の飛躍的な底上げになったと思います。そして、これらの人たちが本来のMSWの在るべき活動を現実に示していったことで、MSW事業の歴史を変えていると思っています。現場で実際に支援に当たってみて、どうですか。

**原田** なでしこプランに関わる中で、この事業が及ぼす影響は計り知れないと実感しています。患者さんからいただく感謝の言葉や手紙でも、それを強く感じます。更生保護施設で健診を受

けて病院にかかった方から「私がかえり元気でいられるのも、あの健診のおかげです」との言葉をいただきましたが、それで私も逆に元気が出ました。言葉（ことば）の力ですね。  
**炭谷** 何よりの励みになりますね。  
**原田** 社会的な弱者と呼ばれる方々と関わる中で、人生勉強になることも多くあります。どんな方の人生にも光と影があると思います。私達MSWはその影の部分に寄り添うことが多いのですが、その中で、対象者の方々と共に悩み、苦しみ、そしてその過程を通して一筋の光を見出していく。その光を共に見出した時の彼らの安堵感や喜びを感じること、そしてその思いを共有できた時の達成感が、MSWのやりがいにつながっていると思います。  
**炭谷** あまり自立つ職種ではなく、縁の下の力持ちのような仕事が多いのが現実でしょう。時にはめげるかもしれませんが。しかし、あなたの方の後ろには病院をはじめ各施設の職員が、いや済生会の全職員がついています。さらには、支援が必要なのに声をあげられない多くの方々が続いています。共に頑張りましょう！

あなたの方の後ろには  
済生会の全職員が  
声をあげられない  
多くの方々

上の子に手を出さない  
優しさを取り戻しました。

—— 2歳の超重症心身障害児のママ。下のその子にばかりきりきり、  
つい上の子につらく当たってしまおうと自己嫌悪。  
超重症心身障害児ショートステイ事業で下の子を当院に預け、  
4日間、上の子の世話をしあげられた（埼玉・川口総合病院）

ありがとうございます。  
子どもが無事に  
成人式を迎えることができました。

—— 母子ともに危険な状態で救急搬送。命は取りとめたものの母子に障害が残ったため、  
MSWが関係機関等と協議に奔走、退院にこぎつけた。その後も訪問看護に同行。  
20年後、娘さんの晴着姿の写真入りはがきが届いた（山口・下関総合病院）



性犯罪被害者が1カ所で診療やカウンセリング、警察対応などが受けられる福井県済生会病院ワンストップ支援センター。他にも、同院ではがん患者への就労支援など先駆的な相談施設を展開している



更生保護施設で無料のインフルエンザ予防接種（栃木・宇都宮病院）



地域を訪問して高齢者の健診（山口総合病院）

食べてください。

—— 無低で治療を受けた40歳の難民女性が、  
後日、母国の手づくりお菓子を持ってきてくれた  
（埼玉・川口総合病院）

抗がん剤がすごく高いって聞いたので、  
申し訳ないです。  
まだ、がんには負けません。

—— 一人暮らしの男性。がんで就労できず、  
治療費の支払いが困難なため無低が適用された（大阪・中津病院）

お金がなくても、皆さんと平等に  
治療や看護をしてもらって  
送り出すことが出来ました。

—— 肺がんの治療費が減免となった夫を見送って、妻が（山形済生病院）



私たちのために

病気や医療費の話を

聞いてくれるところって、

なかなかないんです。

——ブラジル人女性が「外国人のための無料医療相談会」で（山形済生病院）



集団健診の無いブラジル人学校を訪問し、子ども達を無料で健診（愛知県済生会リハビリテーション病院）



いろんな心配をせずに

受診できて……

こんなに元気にしてもらい、

どうもありがとう。

——外国人夫婦間のDVで乳児を連れてシェルターに避難した母親。その子の風邪が治らないと受診し、気管支炎で入院、無低で減免（神奈川・横浜市南部病院）



外国人向け無料健診・相談会（新潟第二病院）



# 故郷へ帰れました…

——カメルーンからフランス語で手紙。拘留中に脳出血、脳動脈瘤の手術を無低で受けて帰国した男性（埼玉・川口総合病院）



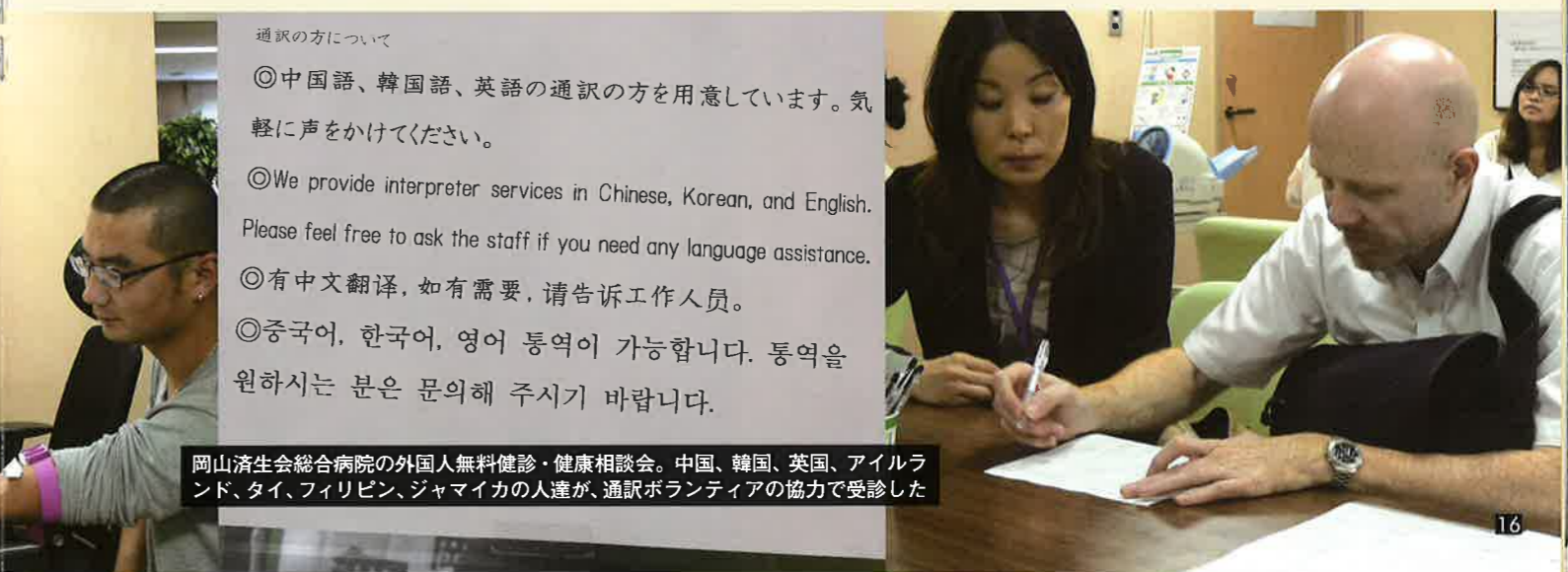
滋賀県病院のブラジル人学校児童の無料健診。バスをチャーターして学校から病院まで子ども達を送迎

今年は

ひとりも入院することなく

冬を越すことが出来ました。

——難民児童への無料インフルワクチン接種に対し、支援協会スタッフが（埼玉・川口総合病院）



通訳の方について  
◎中国語、韓国語、英語の通訳の方を用意しています。気軽に声をかけてください。  
◎We provide interpreter services in Chinese, Korean, and English. Please feel free to ask the staff if you need any language assistance.  
◎有中文翻译, 如有需要, 请告诉工作人员。  
◎중국어, 한국어, 영어 통역이 가능합니다. 통역을 원하시는 분은 문의해 주시기 바랍니다.

岡山済生会総合病院の外国人無料健診・健康相談会。中国、韓国、英国、アイルランド、タイ、フィリピン、ジャマイカの人達が、通訳ボランティアの協力で受診した

**最近、  
変わったね、  
優しくなった！  
と言われるけど、  
うれしいね。**

60歳の元暴力団員。急性硬膜下血腫の手術後、見当識障害が残り、感情を抑えられないなど対人関係・社会生活に支障が出てホームレス状態に。その後の長期支援の途中で(埼玉・川口総合病院)

**声かけてくれて  
助かった。  
こんな制度があるなんて  
知らなかった。**

— 無低で治療を受けた患者の家族(愛媛・今治病院)

**継続して診てもらえる濟生丸は  
主治医みたいなもん**

— 「濟生丸」の船内の受付で愛媛県釣島のお年寄り

**子どもの  
小さい頃の写真が  
全てなくなった。  
近くの公園で、  
流されたレコードを  
見つけただけ。**

— 宮城県石巻市の被災者が  
大阪支部から支援に訪れたMSWに

**私たちのような人たちに、  
こういった  
活動をしてくれる  
先生方が  
たくさんおられたら、  
どれくらいの人々が  
助かるか  
想像できません。**

— 更生保護施設での無料健診を受けた  
元受刑者からの便り(鹿児島・川内病院)

**助かりました。  
退院したら仕事を見つけて  
医療費を  
払えるようになりたい。**

— 借金がある無職男性。慢性腎不全で入院し、  
治療費の減免が決定したときに(山形済生病院)

**皆さんの優しいお志が  
伝わりました。**

— DAR C(薬物依存者リハビリ施設)の  
薬物依存者から、出張健診への  
お礼の手紙(埼玉・栗橋病院)

**濟生会の人たちと  
気持ちに分り合えたのが  
一番良かった。**

— 砂防林で生活する57歳のホームレス。  
巡回健診の始めは警戒していたが回を重ねると、  
ひとり娘を3歳の時に亡くしたことなど過去を  
語ってくれるようになった(神奈川・平塚病院)

**今、生きられているのは、  
皆さんのおかげ。  
いのちの恩人です。**

— 治療費が減免された乳がんの患者さん(大阪・野江病院)

**今までは  
具合が悪いのに  
病院に行かなかった。  
この制度のおかげです。**

— 無低で治療を受けた患者の妻(福岡・飯塚嘉穂病院)

**助けて! 助けて!  
という声が  
忘れられない。**

— 宮城県石巻市の仮設住宅で被災者が、  
支援に訪れた大阪支部のMSWに、  
地震から2年たってもつらい、と訴えた

**これで、  
今晚は  
眠れそうです。**

— ホームレスの30代女性。  
冬のホームレス訪問・健康相談の際、  
防寒着を渡したとき(埼玉・川口総合病院)

**ありがとう。  
これから、  
ぼつぼつやって  
みるわ。**

— 治療費の減免を受けた患者とその妻が  
退院のときに涙ぐみながら(岡山・吉備病院)

**職員と同じように  
できなくて  
悔しかった。**

— 保護観察中の男性が養護老人ホームで社会復帰のための  
ボランティア活動をした後で。  
職員は、彼が「悔しい」と感じるほど懸命に取り組んでいたと、  
感動した(山口地域ケアセンター)

**私たちに  
関心を  
持ってくれて  
ありがとう。**

— 難民からクルド語で手紙(埼玉・川口総合病院)

声をかけてもらえなかつたら  
 のたれ死んでいた。  
 あの時のことが夢にでてくるんですよ。

——河川敷で起居する70歳男性。市の巡回相談員による再三の受診の勧めを拒んでいたが、  
 医師・看護師・MSWが説得。手術後の病室で語った(埼玉・川口総合病院)

こんな生活も3年経った。  
 どうしていいかわからなかつたが、  
 見つけてもらい、声をかけてもらった。  
 抜け出せそうだ。

——ホームレス巡回相談の夜間パトロールの時、  
 橋の下で車上生活をしていた人から(三重・松阪総合病院)



ホームレスへの巡回健診 (埼玉・川口総合病院)



ホームレス健診 (神奈川・平塚病院)

大阪・釜ヶ崎地区健診事業

ホームレス健診・健康相談会 (兵庫県病院)

ホームレスへの炊き出しのときに無料健診 (岡山  
 済生会総合病院)

他人は信用できんから家には入れん。  
 大丈夫、あんたたちは  
 ちゃんと入れちやる。

——アルコール依存症の元ホームレス男性。  
 山口圏域生活支援センター職員が住宅を確保したときに

自分のような者に  
 ここまでしていただいで……

——60代男性ホームレス。公園で無料のインフルエンザ予防接種の際、  
 体の不調を訴えたため、治療を無料で受けられると、  
 職員が受診を勧めた際に涙ぐみながら(福岡総合病院)

# 刑務所を出たら、

## また刑務所に戻るだけだった。

## 今はみんなに認めてもらって、うれしい。

— 就労支援作業所で働く知的障害のある元受刑者。支援して2カ月後に様子を見に訪れた職員に（富山県地域生活定着支援センター）

# 今朝から薬を飲んでなかったから…… ホッとしました。

— 更生保護施設での健康相談で、満期出所したばかりの男性。糖尿病だったが、出るときは薬も服薬情報も何も渡されず心配していた（岡山・吉備病院）

私は長い収監生活が続きまして、人の情というものを肌で感じたことはありませんでした。心よりお礼申し上げます。

— 殺人等で16年以上服役していた男性からの手紙。出所後、更生保護施設で受けた無料健診でポリロープが見つかり、入院手術。医療費は免除（広島病院）

院長先生はじめ日曜の早朝から検査に来ていただきありがとうございます。来月、満期となりますが、年1回は必ず人間ドックに行こうと思います。

— 更生保護施設での無料健診を受けた受刑者からの便り（鹿児島・川内病院）

家賃滞納と入院費とで  
どうしたらいいか分からなくなっていた。

— 脳腫瘍の末期で入院した80代男性の治療費が免除されて、その娘さんが職員にそう漏らした（福岡総合病院）

刑務所等から出た人が社会に復帰するため一時的に暮らすのが更生保護施設。そこを訪れ、利用者に無料で健診（茨城・水戸済生会総合病院）

北海道の少年院の前で大分地域生活定着支援センターの職員（中央）。九州の少年院に入っていた知的障害の少年（右）の退所後の引受施設を捜したが、全国70カ所でことわられた。やっと北海道で見つかったため、北海道の少年院に移送してもらってから退所。職員が現地に赴いて迎え、施設に送り届けた

ショッピングセンターの1室で開いた路上生活者向けの健康相談会（富山・高岡病院）



大分地域生活定着支援センターの入口。同センターは刑務所等からの出所者が社会で生活できるよう支援するのが仕事。済生会は、大分、福井、富山、熊本 の4県で事業を受託して支援に当たっている。この事業とは別に、病院や福祉施設は無料予防接種など出所者等への支援を行っている

刑務所出所者が借りていたアパートの居室。生ごみで畳が抜け、部屋はゴミ屋敷。時々訪問し、大掃除をするのも大分地域生活定着支援センター職員の仕事だ



山口地域ケアセンターで高齢者に配膳する保護観察中の入所者。いくつかの病院や特別養護老人ホームでは、刑務所出所者等が社会復帰に向け、仕事に慣れるための作業の「場」を提供。ボランティアで車いすやエアコンの清掃、高齢者の介護などに従事している



熊本県支部で雇用されている障害者。働く職場は熊本病院のカフェだ



障害者を雇用し、済生会病院のシーツなどのクリーニング業務を行う大阪・りんくうワークス



息子は他の健診では逃げ回っていましたが、済生会の健診では落ち着かせてくれ、

香川県済生会病院による精神障害者施設での健診。採血への抵抗感が強く、通院先での受診が困難になることが多く、施設に向かい出ている

# 沖縄に済生会があったらよかったのになあ。

—大阪府内のハンセン病回復者。出身地の沖縄には、サポートが必要な回復者が多く潜在しているという。そういう人たちにも自分のような支援が受けられたら、と（大阪・ハンセン病回復者支援センター）

## 最後まで受けることができました。サイコー！

—通所の障害者施設で健診を行った後、重度知的障害者の母から礼状が届いた（新潟・三条病院）



石川・金沢病院の障害者授産施設でのリハビリ技術支援。制度の谷間にこぼれ、リハビリを受ける機会が少ない在宅の障害者・家族に自宅のできる訓練の指導を行っている

もっと生きなければいけない人が死んでしまった。こうして、おいしいって言って食べるのが供養だって思う。

## わざわざ来てくださって……忘れられていないと安心します。



ハンセン病回復者が施設から故郷に里帰りするのをサポート（大阪・ハンセン病回復者支援センター）



大阪府支部のMSWが仮設住宅を訪問。かつて漁船の上で作っていたという「タラ汁」を食べる小さな催しで、被災者がポツリと



—宮城県石巻市の仮設住宅で70代の女性。大阪府支部のMSWに

大阪府支部各病院のMSWが交代で、平成24年2月から26年3月まで毎月、定期的に宮城県石巻市を訪問。東日本大震災の仮設住宅や被災者の自宅で相談を受けたり、話に耳を傾けたり、届け出事務の補助などを行った

# 児童虐待防止へ 新たな取り組み



**助** 産制度」というのがあ  
る。経済的に病院にか  
かるのが困難な妊産婦に国と自  
治体が助成する、児童福祉法に  
定められた制度だ。助産施設に  
指定されている福岡総合病院で  
は、年間40人ほどが利用する。  
対象者は単に所得が低だけ  
でなく、望まない妊娠や未婚、  
若年、配偶者や親が非協力的な  
ど他に様々な問題を抱えている  
ことが多い。視点をお腹の中の  
赤ちゃんに移せば、親のこうし  
た問題は、児童虐待につながる  
リスクが高いと言われる。

「胎児は私の患者なんです。生  
まれる前から虐待を防ぐ手立て  
を講じないと……子どもに関わ  
ることは社会の未来に関わるこ  
と」。そう考えた八坂医師は4  
年ほど前、小児科医でありなが  
ら出産前から親への関与を始め  
、出産後も予防接種や健診、一般  
診療の中でケアを継続する取り  
組みをスタートさせた。他の診  
療科の医師の関与には抵抗があ  
るものだが、産婦人科の医師も  
協力してくれた。  
助産制度の利用者全員が虐待  
を起こすわけではない、もちろん、



ない。しかし、虐待につながる  
要素は少なくても、悩みや不安  
を語る人のいない母親は多く、  
「とりあえず利用者全員」を対  
象とした。当初は、相談を受け  
る一方、行政側との折衝も八坂  
医師が担当していたが、小児科  
、産婦人科、心療内科、助産師、  
看護師、医療ソーシャルワ  
ーカー(MSW)、事務職など多  
職種によるチームでサポートす  
る体制ができた。  
今では初診の段階からMSW  
が面接。通常の医療のほか各メ

ンバーが利用者者と接触する中  
で得た情報を月2回開く「周産期  
カンファレンス」で共有する。  
心に問題があれば臨床心理士が  
カウンセリングし、家庭に問題  
がある場合は行政と連携する。  
行政との折衝はMSWが担当、  
八坂医師は母親との相談やス  
タッフへの対応指示に力を注ぐ。  
この、チームで母親を支える  
システムのほとんどは、「出産  
前相談」ということで診療費は  
請求できない。病院は「済生会  
の使命としての事業」と位置づ  
けている。  
助産制度の利用者以外にも、  
関係者が「問題あり」と判断す  
ればチームは始動する。「ウチ  
で生まれた子は絶対に川に浮か  
さない」。いささか刺激的だが、  
それを合言葉にチームの活動は  
続く。八坂医師が言う。  
「中には親から風呂に沈められ  
た過去を持つ母親もいます。そ  
うした親はモデルがいません。そ  
うして親はモデルがないままに  
必死で頑張っている、一方で追  
い詰められると虐待を行う可能  
性もあります。連鎖は止めなけ  
ればいけません。チームの取り  
組みは、虐待を防ぐ予防医学な  
んです」

なでしこプランとしてまだ位置づけされていませんが、済生会は児童虐待防止への活動も始めています。その中から先駆的な取り組みを続ける群馬・前橋病院と福岡総合病院の小児科医師を紹介しましょう。

全国の児童相談所への通告件数は2013年度7万3765件と90年度の調査開始以来最多。虐待の大きな原因の一つに生活の困窮もあるとみられ、済生会として見逃すことのできない問題となっています。2医師の支援はまだ「点」ですが、済生会はこれを「線」に、さらには「面」として展開していくことを目指しています。

# 脆弱な家庭が社会に発するSOS

溝口史剛 医師  
「前橋病院小児科」



**被** 虐待児の「最終ライン」  
は医師だ。子どもたちは  
語らない。事故なのか虐待なの  
か、境目は難しい。もし見逃し  
ていれば、傷を治して帰しても  
「根本治療」にはならない。  
溝口医師は10年ほど前から虐  
待児が増えていることに着目し  
ていた。2000年に児童虐待  
防止法はできていたものの、医

療界の動きは「それは福祉の問  
題でしょ」と鈍かった。医療界  
が本格的に防止に取り組むよう  
になったのは、15歳未満の子ど  
もから臓器提供が可能となった  
2010年の臓器移植法改正後。  
被虐待児からの提供が禁止され  
、虐待を見抜く力が必要となった  
ためだ。  
それ以前から研究を始めてい

た溝口医師は、厚労省の医療関  
係者向けガイドブックを執筆。  
さらに、日本語の専門書がない  
ことから虐待対応先進国のアメ  
リカやイギリスの専門書の翻訳  
に取りかかり、B5判877頁  
の『子ども虐待医学』など2冊  
を相次いで上梓した。この間、  
日本小児科学会小児死亡登録・  
検証委員会の副委員長として全  
ての子どもの死因を究明するシ  
ステムの、日本での導入を目指  
した活動を続け、虐待の早期発  
見ソフトや医療者研修プログラ  
ム「BEAMS」の開発にも携  
わった。  
児童相談所への虐待通告は  
年々増えているが、医療機関か  
らの通告はまだ少ない。「特殊  
な親の起こす特殊な問題」とと  
らえる医師が依然多く、それゆ  
えに、いざ実際に虐待を疑うべ  
き事例に遭遇した際に、虐待を  
否認したり矮小化してしまっ  
ている現状がある。「虐待対応は、  
犯罪者の告発ではなく育児支援  
であり、早期から積極的に取り  
組む必要があるのです」  
「虐待の原因は、親自身が親か

ら虐待を受けた過去があったり、  
育児への手助けがなかったり、  
生活苦や夫婦関係の悪化、地域  
での孤立など様々です。それら  
を解決しないことには根治につ  
ながりません」。虐待をしてし  
まった親だけを責め、隔離して  
終わりにするのではなく、地域  
の育児支援システムの欠陥に目  
を向けることが専門家としてな  
すべき仕事である、と溝口医師  
は強調する。「子どもを殴って  
ハッピーな親はどこにもいま  
せん。親たち自身が問題を抱え  
ているわけで、虐待は脆弱な家庭  
が社会に発するSOSととらえ  
て対処しなければなりません」  
そのためには多機関の連携が  
必要となってくる。「医療、福祉  
、司法、教育など多面的な支援が  
不可欠であり、それぞれの機関  
が組織の都合ではなく、子ども  
を第一優先にした、膝を突き合  
わせた深い連携を行うシステム  
が鍵になると思います」。医療  
の枠を越え、どうしたら有効な  
ネットワークがつけられるか。溝  
口医師は、新たな段階に向けた  
研究を始めている。

# チームは虐待を防ぐ予防医学

八坂知美 医師  
「福岡総合病院小児科」



**済生会病院に入院し、  
よかった。ありがとう。**

—— 借金を返済しながら自宅で要介護度4の父の面倒を見ていた娘さん。  
 以前、母親が他の病院に入院した時は入院費の工面に苦労したという  
 (三重・明和病院)

**済生会の生活困窮者支援事業利用者 (H26年度)**  
**無料低額診療 195万人**  
**なでしこプラン 14万4000人**

無料低額診療事業

項目	年度	平成26年度	平成25年度	増減	前年度比 (%)
無料低額患者および入所者等延数 (人)		1,946,982	1,920,144	26,838	101.4

なでしこプラン (済生会生活困窮者支援事業)

支援対象 上段:事業数 下段:対象者数	平成26年度					平成25年度	平成26年度 対前年度 増減
	診療	健康診断	健康・医療相談	その他	合計		
1. ホームレス等	6	4	13	8	31	31	0
	18,753	958	504	55	20,270	20,383	△ 113
2. DV被害者等	6	2	4	2	14	13	1
	74	11	221	51	357	683	△ 326
3. 障害者・高齢者	7	19	25	40	91	82	9
	13,290	4,332	8,840	37,891	64,353	65,122	△ 769
4. 刑余者等	15	20	15	25	75	75	0
	1,231	1,423	452	6,092	9,198	8,393	805
5. 外国人	6	5	2	5	18	23	△ 5
	238	422	18	1,855	2,533	2,259	274
6. 母子児童	3	4	5	2	14	13	1
	179	446	356	186	1,167	1,298	△ 131
7. その他 (住民等)	9	7	30	21	67	72	△ 5
	6,740	4,000	8,328	27,354	46,422	34,606	11,816
事業数 (計)	52	61	94	103	310	309	1
支援延数 (計)	40,505	11,592	18,719	73,484	144,300	132,744	11,556 (8.7%増)



福元美穂 (Miho Fukumoto)

〔なでしこジャパン(サッカー日本女子代表)ゴールキーパー〕

表紙：なでしこリーグ(日本女子サッカーリーグ1部)の岡山湯郷Belle(ゆのこうべル)所属。長年にわたり日本代表チームの守護神として活躍している。1983年鹿児島県生まれ。2002年日本代表に初選出、以後数々の国際試合に出場。2008年10月リーグ戦中に左アキレス腱を断裂、療養を経て2009年4月公式戦に復帰した。日本が優勝した2011年ドイツ・ワールドカップではセカンドキーパーとしてチームを支え、銀メダルに輝いた2012年ロンドン・オリンピックでは正ゴールキーパーに返り咲く。特に準決勝フランス戦では好セーブを連発し、その活躍は海外メディアから大きく賞賛された。

## シリーズ 濟生会の力

第1集

### いのちの最終ライン

平成26年11月10日 第1版第1刷発行

平成29年11月15日 第1版第4刷発行

発行 社会福祉法人 濟生会  
理事長 炭谷 茂

編集 広報室

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

URL: <http://www.saiseikai.or.jp>

# 社会貢献は

## 創立の原点

濟生会は、地域の医療・保健・福祉を担っています。

### 創立以来の理念 「施薬救療による濟生」

濟生会は明治天皇の「濟生勅語」に基づき明治44年設立されました。社会に増大した困窮者に無償で医療を行い、それによって生を濟おうというのです。各地に診療所を設け、貧困所帯に無料の特別診療券を配布して受診をうながしたほか、巡回診療班を編成して困窮者の多い地区を回り診察・保健指導を行いました。

第二次大戦後、濟生会は財団法人から社会福祉法人に改組して再スタートを切りました。天皇のお志を忘れないため、「社会福祉法人 濟生会」を現在も正式名称としています。

### 日本最大の 社会福祉法人として

現在、第6代総裁に秋篠宮殿下を推戴し、会長は豊田章一郎、理事長は炭谷茂が務めています。公的医療機関として指定されており、全国40都道府県で99の病院・診療所、280の福祉施設等(平成26年度)を運営し、約5万8000人が働く日本最大の社会福祉法人です。平成26年度は、生活困窮者209万人を含め延べ2524万人が本会を利用されました。地域の方々の目線に立って、皆さまに最適な医療・保健・福祉を総合的に提供することが、われわれの最大の使命だと考えています。



明治天皇



秋篠宮殿下

- |            |            |                                      |
|------------|------------|--------------------------------------|
| 明治         | ●44年 2月11日 | 明治天皇「濟生勅語」を發し、お手元金150万円ご下賜           |
|            | ●44年 5月30日 | 濟生会の設立許可(創立記念日)                      |
|            | ●44年 8月21日 | 初代総裁に伏見宮貞愛親王殿下                       |
|            | ●44年 9月 9日 | 医務主管に北里柴三郎                           |
| 大正         | ●1年10月24日  | 紋章として「なでしこ」を制定                       |
|            | ●2年 9月 1日  | 濟生会第1号の神奈川県病院開設                      |
|            | ●12年 4月 2日 | 第2代総裁に閑院宮載仁親王殿下                      |
| 昭和         | ●12年 9月 1日 | 関東大震災 臨時に巡回看護班編成                     |
|            | ●20年 8月21日 | 第3代総裁に高松宮宣仁親王殿下                      |
|            | ●26年 8月22日 | 医療法による公的医療機関に指定                      |
|            | ●27年 5月22日 | 社会福祉法人として認可                          |
|            | ●37年10月 7日 | 巡回診療船「濟生丸」進水式                        |
| 平成         | ●62年 4月21日 | 第4代総裁に高松宮宣仁親王妃喜久子殿下                  |
|            | ●6年 9月 7日  | 第12代会長に豊田章一郎                         |
|            | ●12年 4月 3日 | 第5代総裁に三笠宮家の寛仁親王殿下                    |
|            | ●22年12月10日 | 本会の10年間の活動目標であるマスタープラン「第四次基本問題委員会報告」 |
|            | ●23年 5月30日 | 創立100周年記念式典<br>天皇皇后両陛下ご臨席            |
|            | ●25年 4月 1日 | 第6代総裁に秋篠宮殿下                          |
| ●26年 1月15日 | 4代目濟生丸就航   |                                      |





露にふす 末野の小草 いかにごと  
あさ夕かかる わがころかな

—生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人は  
いないだろうか、いつも気にかけて仕方がない—  
初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下は明治45年、本会事業の  
精神を野の撫子なでしこに託して歌にお詠みになりました。その  
御心を、いつの世にも忘れないようにと、撫子の花に露  
をあしらった紋章にして大正元年から用いています。

Social Welfare Organization  
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

社会福祉法人 恩賜財団 済生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階  
TEL: 03-3454-3311 (代)  
E-mail: headoffice@saiseikai.or.jp